

# 第 26 回 木津川上流河川環境研究会 議事概要

## 【開催概要】

開催日時： 平成 27 年 2 月 17 日(火曜) 10:00～13:00

開催場所： ホテル京阪 3 階 菊の間

## 【出席者】

委員： 5 名

事務局： 木津川上流河川事務所 6 名

オブザーバー： 水資源機構関西支社 1 名  
木津川ダム総合管理所 1 名

## 【議事次第】

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
  - (1) 本年度の調査・検討経緯の確認
    - ・ 前回 第 25 回研究会等指摘対応について
  - (2) 堰・魚道 連続性再生検討
    - ・ 縦断連続性再生検討：本年度の調査・検討結果と今後の方針
    - ・ 横断連続性再生検討：本年度の調査・検討結果と今後の方針
  - (3) 河道内樹林管理検討
    - ・ 本年度の調査・検討結果と今後の方針
  - (4) 河川ダム 水量・水質検討
    - ・ 本年度の検討結果と今後の方針
  - (5) その他
    - ・ 河川工事实施に係る環境保全への助言について
    - ・ 次年度の予定について
4. 閉会

## 【配付資料】

- ◆ 議事次第 / 席次表
- ◆ 資料 1：第 25 回木津川上流河川環境研究会等 指摘対応
- ◆ 資料 2：堰・魚道 縦断連続性再生検討 資料
- ◆ 資料 3：堰・魚道 横断連続性再生検討 資料
- ◆ 資料 4：河道内樹林管理検討 資料
- ◆ 資料 5：河川ダム 水量・水質検討 資料
- ◆ 資料 6：河川工事实施に係る環境保全への助言について

## 【審議内容】

### (1) 木津川上流河川環境研究会等の開催結果について

事務局より、木津川上流河川環境研究会における検討経緯、前回研究会（第 25 回）および各ワーキンググループにおける指摘の確認と、その対応方針について説明を行った。

### (2) 堰・魚道 連続性再生検討について

#### 1) 堰・魚道 縦断連続性再生検討について

事務局より、堰・魚道 縦断連続性再生検討に関する本年度調査・検討計画、調査結果速報について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・ 各取り組みは順調に進行している。
- ・ 相楽・大河原発電所取水堰の魚道改善の継続について、堰管理者に協力は得られないか。  
⇒魚道の良好な維持管理は必要であり、指導・助言を続けていく。
- ・ 今後の維持管理はどのような形が主体になっていくのか。  
⇒魚道設置に先立ちワークショップを 2 回実施した。ゴミの対応等は水利組合、漁協、国等関係者の中で気づいたものが実施する事としている。大きな破損や流出の場合は管理者がやるべきであると考えている。
- ・ 土嚢やネットによる簡易改良は、釣り人や漁協とのトラブルが無いように行ってほしい。
- ・ コクチバスは阿武隈川等では全川に広まった事例がある。実害のデータはあるのか。
- ・ コクチバスは今後の増加も考えられる。他河川の情報があれば示してほしい。  
⇒実害については把握していないが、流水適応性が高く、瀬にも出ることからアユ等への被害も大きいと思われる。河川水辺の国勢調査や、阿武隈川でのモニタリングデータがあるので、それらについては整理できると考えられる。

#### 2) 上野遊水地 横断連続性再生検討について

事務局より、上野遊水地 横断連続性再生検討に関する本年度調査・検討計画、調査結果速報について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・ 簡易的な改善で遡上が容易になっているのは間違いないだろう。地域の人は水が流れる方がよい、今回のモニタリング調査結果も活用しながら、水路中の植生帯の意義など、時間をかけて説明していくべきである。
- ・ 上野遊水地周辺において、環境活動の母体として協力していただける団体はないか。  
⇒学校やNPO など、協力団体については現在探している。
- ・ 今現在すでに多いオオクチバス、ブルーギルは周辺のため池が流入源になっていると考えられる。地元の人に理解してもらって、池干し等に協力して頂きたい。改善の指標となるナマズについても、稚魚は外来魚の影響を大きく受けるだろう。
- ・ 駆除の主体がどこになるのかが課題であるが、今回、分布実態が見えてきたのは一つの大きな知見であろう。

### (3) 河道内樹林管理検討について

事務局より、河道内樹林管理検討に関する本年度調査・検討計画、調査結果速報について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・ 伐採や除根、切り下げ等を行っている。今後は、維持管理にかかる予算の妥協点を見出すために検討を進めて行く必要がある。
- ・ 伐採等の対策について、気象、環境条件の影響により定量的な評価がしにくい、それなりの成果は認められる。
- ・ 竹等に対する水際作戦として、中洲やマウンドのレベルや水位との関連性を精査して、水位コントロールにより樹木の勢力を抑えられないか。深度分布や河川水位の局所的なモニタ

- リングにより、マイクロな河川水のコントロールが有効な対策になるかもしれない。
- ・現在の調査箇所では、平水位の場合マウンドでは2mの比高がある。よって、標高を下げる、もしくは水路を造成するといったような対応が考えられる。
  - ・平成 24～25 年度の大出水については、詳細な経緯を追ってまとめてあるはずなので、出水の効果について定量的に整理してもらえば、適切な予算の利用方法も見えてくるのではないかと。
  - ・中州内に浅く水路を掘って、流水により中州を削り樹林を抑制するとの考えもある。
  - ・九頭竜川では旧河道を浅く掘り副水路にする試みもあるが、掘りすぎると本川流路が変わるなどの可能性もあるため、慎重に検討する必要がある。ポテンシャルがあるのであれば、次年度から合わせて検討してほしい。
  - ・どのぐらいの水位であれば樹木に影響があるか、樹種による閾値についてダム湛水時の事例等でデータはないか。

#### (4) 河川ダム水量・水質検討について

事務局より、河川ダム水量・水質検討に関する本年度検討計画について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・平成 25 年度の出水量は流量が大きいので、出水前後の比較がわかりやすい。
- ・上流部では、必ずしも負荷量が下がっているとは言えない。おそらく、流域自治体の予算量や下水道設備との関連であると思う。関係自治体に改善してもらって、ドライビングフォースのような体制があるとよい。
- ・自治体にわかりやすいマップを配る等して、情報発信を期待したい。

#### (5) その他

その他として、河川工事实施に係る環境保全への助言について、今年度の予定について、事務局より説明を行った。

- ・今後、より詳細な工事計画が示されるという認識でよいか。  
⇒その予定である。数ヶ年の事業説明と個別（重点）箇所、仮設は考えられる広めの範囲を示す予定である。
- ・淀川と同じような対応方法になるのであれば、対象工事はどのように選択するのか。  
⇒ある程度は事務所で抽出させてほしい。
- ・事務所で準備する情報は主に河川水辺の国勢調査で作成される環境情報図か。
- ・河川環境情報のデータバンク、台帳のようなものがあるとありがたい。  
⇒GIS 等での整理を考えたいが、当面は環境情報図である。
- ・仮設は工事受注者の任意か。  
⇒指定仮設と任意仮設がある。環境上配慮が必要となれば指定とすることになる。
- ・環境情報図はベースとして活用するのはよい。ただし、見落としがあるかもしれないので、目視でもよいので調査、配慮はしなければいけない。次回の研究会までに、次年度工事内容を絞って見せてもらって、場合によっては事前調査等の配慮について助言したい。
- ・工事箇所の植物相調査はやらないのか  
⇒基本は環境情報図とし、必要あれば追加調査としたい。

以上